

## 北海道の農村地域におけるコロナ禍の地域活動の状況把握 Adaptive state of regional activities in the COVID-19 crisis in rural area, Hokkaido

○池上 大地\*・堀尾 洋輔\*\*・山本 忠男\*\*\*  
IKEGAMI Daichi, HORIO Yosuke, YAMAMOTO Tadao

### 1. はじめに

地域活動は、「希薄になった住民同士のコミュニケーション・ネットワークを再結成するとともに集落自治を取り戻す契機」（中村ら，2011）とされている。しかし，2019年度末からの新型コロナウイルス感染症（以下，COVID-19 という。）の蔓延による影響で，地域内外の交流が減少し，地域活動も制限を受けている状況にある。行動の自粛によるストレスの増加量は，家族や地域住民との信頼関係が希薄になるほど高くなる（上原，2021）と言われており，住民同士のコミュニケーション頻度の低下は，ソーシャル・キャピタルの低下，さらには望まない孤独の増加につながる恐れがある。本研究では，COVID-19 の蔓延前後の地域活動の実態把握と，地域活動の低下要因を検討し，レジリエンスの高い地域活動のあり方について考察した。

### 2. 方法

2020年11～12月に実施した地域活動に関するアンケート（回収率57%，有効回答数79件）を使用した。このうちデータに欠損のない67件を解析の対象とした。統計解析ソフトは，College Analysis と Excel を使用した。Table.1 に示すアンケートから得られた団体の属性（選択肢）や課題（10段階評価）を説明変数として，それらが COVID-19 蔓延前後の活動状況（10段階評価）や総合満足度（10段階評価）に及ぼす影響の程度を，CHAID 分析及び多変量解析手法によって求めた。なお，活動状況と総合満足度に対する COVID-19 の影響については，COVID-19 蔓延前の評価からアンケート実施時の評価の差分を求め，負の値を「影響あり」，0以上の値を「影響なし」とした。

Table.1 アンケートの設問内容 **Questionnaire survey**

説明変数	団体の属性 (選択肢の数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容 (8, 複数回答可)</li> <li>・継続年数 (3)</li> <li>・会員の平均年齢 (3)</li> <li>・生産者の割合 (3)</li> <li>・会員数 (3)</li> <li>・活動地域区分 (8, 複数回答可)</li> <li>・活動を始めたきっかけ (6, 複数回答可)</li> </ul>
	団体の課題 (それぞれに対する満足度と重要度, 10段階評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保</li> <li>・地域住民</li> <li>・人間関係</li> <li>・地域資源</li> <li>・景観</li> <li>・活動資金</li> <li>・行政の協力</li> <li>・教育機関の協力</li> <li>・農協や商工会の協力</li> </ul>
目的変数	COVID-19 蔓延前後の活動状況の差, 総合満足度の差	

### 3. 結果と考察

**(1) 活動状況** CHAID 分析の結果から，COVID-19 蔓延後の総合満足度に最も関連性の強い要因は蔓延後の活動状況であり，その活動状況に特に影響を及ぼす要因は活動内容であった。次に，COVID-19 蔓延前後の活動状況について数量化Ⅱ類の解析から得られたカテゴリースコアを Table.2 に示す。カテゴリースコアは各項目が目的変数に影

\*国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 Civil Engineering Research Institute for Cold Region, PWRI

\*\*北海道大学農学部, School of Agriculture, Hokkaido University

\*\*\*北海道大学大学院農学研究院, Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University

キーワード: 地域活動, COVID-19, CHAID 分析, 多変量解析

響を与える度合い（値が正に大きいほど COVID-19 蔓延の影響を受けにくく、負に大きいほど影響を受けやすい）と解釈できる。この結果から、活動状況において、〔直売所・レストラン〕や〔都市・消費者交流〕などの人の交流に関する活動内容が COVID-19 蔓延の影響を受ける要因となっていた。また、〔継続年数〕の短さや〔平均年齢〕の低さ、〔生産者の割合〕が 3～5 割といった要因も COVID-19 の影響を受けやすいことが示された。

**(2) 総合満足度** 目的変数を COVID-19 蔓延前後の総合満足度の差として、同様に解析した結果、活動状況では負の値を示していた項目の一部、例えば〔自然環境の保全〕や〔継続年数〕などが正の値となった。〔自然環境の保全〕のような活動は比較的密を回避する手段をとりやすく、行動制限のある中でも満足度のいく活動ができたと考えられる。また、〔継続年数〕の短い団体は、会員の活動に参加する意欲が年数の長い団体に比べて高いという傾向がある（福田ら、2007）ため、活動に制限がある中でもできることを行い、満足度が低下しなかったと考えられる。

**(3) 団体の課題に対する満足度と重要度** 目的変数を活動状況、説明変数を団体の課題として判別分析を行った結果、COVID-19 の影響を受けにくい要因は〔農協・商工会に対する重要度〕が大きかった。同様に、総合満足度を目的変数としたときは〔農協・商工会に対する満足度〕が重要な要因となった。これは、革新的なアイデア（対抗策）を講じるためには、「革新的知識が公共財的性格を持つ限り、生産者組合の役割が決定的に重要である」（大塚、2020）とあるように、COVID-19 という大きな社会変化の中、農協や商工会のような生産者組合の役割と重要性が反映されたものと考えられる。一方、COVID-19 の影響を受けやすい要因は、活動状況・総合満足度ともに〔人材満足度〕、〔資源重要度〕、〔景観満足度〕の三つであった。

#### 4. まとめ

COVID-19 蔓延前後の地域活動の実態把握を通して、継続年数や会員年齢、会員構成によって影響度合いに違いのあることが判明した。また、COVID-19 の影響を受けにくい要因は、対面による直接的な交流からオンライン交流への柔軟な行動変容、密になりにくい活動スタイル、生産者組合との連携であった。以上の結果から、レジリエンスの高い地域活動には、活動のやり方（オンライン・活動スタイルの変更・協力体制など）を変えるとという適応能力の発揮が効果的であることが示唆された。

Table.2 カテゴリースコア  
Category Score  
(COVID-19 蔓延前後の活動状況)

団体の属性		カテゴリースコア
活動内容	特産品・地域資源	0.399
	直売所・レストラン	-0.862
	都市・消費者交流	-0.547
	地域 PR・ブランド化	0.632
	地域内活性化	-0.088
	人材育成・教育・食育	0.213
	景観形成	-0.543
	自然環境の保全と利用	-1.011
継続年数	10 年以内	-0.444
	11～20 年	0.388
	20 年以上	0.023
会員数	10 名以内	-0.819
	11～20 名	0.027
	21 名以上	0.321
会員の平均年齢	20 代, 30 代	-2.202
	40 代, 50 代	-0.100
	60 代以上	0.530
生産者の割合	3 割以内	0.027
	3～5 割	-1.813
	5 割以上	0.213
活動地域	都市的地域	-1.394
	平地農業地域	0.581
	中山間農業地域	-0.334
	山間農業地域	0.348
	水田地帯	0.101
	畑作地帯	0.372
	酪農・畜産地帯	0.544
	漁村	0.058
活動のきっかけ	営農・所得改善	-0.594
	交流	-0.519
	地域理解・教育	-0.210
	福祉・食の安全	-0.149
	環境保全	1.518
	外的要因	-0.719